

## 「全身麻酔」の実験―「脳内リセット」理論を証明するために

それでは、私の仮説「脳内リセット」理論をどうやって証明するかです。

頭の働きを無にする方法、しかもすでにこれが医学的に認められているやり方を応用し、神経・内分泌・免疫系への影響を見ればよいのではないかと考えました。難しそうに思えるその方法が、医局の若い先生たちと一緒にいろいろ雑談しているときに、偶然に、そして意外にも簡単に見つかったのです。それは、手術時に行われる全身麻酔に着目したことです。

これまでの実験でもそうでしたが、まず人道的に許される方法で行うということが絶対的な条件で、これを満たさなければなりません。私の本業の1つは、関節リウマチの悪化によって壊れてしまった患者さんの膝関節、股関節などに人工関節の手術を行い、再び歩行可能にすることです。この手術は全身麻酔のもとで行いま

す。全身麻酔がかけられている状態では意識はなく、また考えるなどはまったくあり得ません。即ち、ストレスを生じる思考などの前頭葉の働きも無です。逆に、その直前の状況、つまり手術台上がり、これから麻酔をかけますよという段階では、極度の精神的ストレスにさらされます。手術は成功するのだろうか、事故は起こらないだろうか、いくらよくなると言っても身を切られてしまうのかなどなど、患者さんは猛烈な不安に押しつぶされそうになることが少なくないと思われれます。

もうお分かりのように、人工関節の手術を受ける患者さんに協力してもらえば、過度の精神的ストレスがかかっている状態から、これがまったく取り除かれた状態にすることが、しかも治療という人道的な行為のもとで行えるのです。

この実験の目的を整理します。まず、これから手術を受ける関節リウマチ患者さんでは過度の精神的ストレス下で血中のインターロイキン-6などの値が増加するか否かを見ること。次に、全身麻酔下で意識が消失し、精神的ストレスがなくなつたとき、笑いの実験と同じように、これらの値は確かに減少するか否かを調べれば、

私の仮説が正しいのかどうかははっきりするということです。

## 実験の対象・方法・結果

実験対象は、人工膝関節の手術を受ける関節リウマチ患者さん21人のグループと、やはり人工膝関節の手術を受ける変形性膝関節症の患者さん8人のグループです。変形性膝関節症は、加齢などにより膝関節が変形してくる病気で、炎症はほとんどありませんので、ここでは一応健康な方、即ちコントロール（対照）グループと考えてください。

実験開始です。今回は、基準値を得るために、手術の前日に手術日と同じ時間帯で2回採血しました。手術台に上がる時刻の朝8時30分と、全身麻酔が完全にかかり、意識がまったく無の状態になって30分が経過した、手術直前の朝9時です。なぜ手術後に採血しなかったのかと言いますと、手術は「からだ」にとって大

きな身体的ストレスですので、この刺激が加わって得られた結果には信頼性がないからです。

さて、実験結果です。まず、関節リウマチ患者さんのグループを見てみます。全身麻酔をかける直前の手術台上では緊張に関与しているノルアドレナリン、コルチゾール、そして前から何度も述べているインターロイキン-6の値は、前日の基準値にくらべ有意に上昇しました。

それが、全身麻酔がかかり手術を始める直前の値は、前日に採血して測定した基準値から著しく低下しました。つまり、関節リウマチ患者さんのノルアドレナリン、インターロイキン-6、そしてコルチゾール値は手術を受けるという過度の精神的ストレスが加わると上昇し、意識をなくし、精神活動を無の状態にすると反対に有意に低下することが分かりました。

一方、コントロール（対照）グループとした変形性膝関節症の患者さんではどうでしょうか。

インターロイキン-6、ノルアドレナリン、コルチゾール値に有意な変動はありませんでした。

この結果から、関節リウマチ患者さんのように神経・内分泌・免疫系に乱れがあると、精神的ストレスはその乱れをさらに増悪させる。しかし、このような乱れがある場合でも、全身麻酔という特殊な状況ですが、思考は無論のこと、意識がなくなり精神的ストレスから完全に解放されれば、その乱れを正す方向に導かれることが分かりました。

即ち、私が立てた仮説「脳内リセット」理論が正しかったことがみごとに証明されたのではないかと考えられました。

人には過度の精神的ストレスを無、または軽減し、身体内部のバランスの乱れを正常化する「リセット機構」と呼んでもよい仕組みが備わっていることが強く示唆されました。そして、楽しい笑い、全身麻酔といった生理現象がリセットボタンを押すのではないかと推測されました。

なお、病気がない健康な方の場合には、よほどの過激な精神的ストレスでない限り、自律神経系・内分泌系・免疫系で、これらストレスを吸収し、身体になんら影響を及ぼさないことが推測されました。